

TOYOBO NOW

第159期 中間報告書

2016年4月1日～2016年9月30日



TOPICS

PETを超える機能性を持つ
100%バイオ樹脂の製造、オランダの
バイオベンチャーと合意

競走馬の心拍数測定用腹帯カバーに
当社導電素材が採用

液晶ディスプレイの偏光子保護フィルム、
生産能力を倍増

当社グループ従業員（坂倉航季）が
パラリンピックに出場



PEFの製造を行う岩国事業所

PETを超える機能性を持つ100%バイオ樹脂の製造、 オランダのバイオベンチャーと合意

当社とオランダのバイオベンチャーのAvantium社は、100%バイオ樹脂ポリエチレンフタレート（PEF）の製造を当社が行うことで合意しました。

PEFは、ポリエチレンテレフタレート（PET）に近い特性を持ちながら、フィルムやボトルに成形した時のバリア性がPETより高く、新たな用途展開が期待できる100%バイオ由来の樹脂です。

当社では、独自の重合技術とAvantium社が製造するフランジカルボン酸（FDCA）を用いて、PEFやPEFフィルムの製造を行ってまいります。

PEFフィルムの特長

- ① 100%バイオ樹脂で環境に優しい
- ② PETフィルムと比較し、酸素は10倍、水蒸気は2倍のバリア性

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、世界経済においては、米国では内需主導のゆるやかな景気拡大が続きましたが、中国は景気減速の局面にあり、また欧州では英国のEU離脱問題の影響が懸念されるなど、先行き不透明な状況が続きました。一方、国内では、堅調な個人消費に支えられて、景気はゆるやかに回復しました。

このような環境のもと、当社グループは、「環境、ヘルスケア、高機能で、社会に貢献する価値を、創りつづけるカテゴリー・リーダー」をめざし、特長のある製品を、国内外の市場へ展開しております。当期間においても、2017年度までの4年間の中期計画で掲げた「海外展開の加速」、「新製品の拡大・新事業の創出」、「国内事業の競争力強化」、「資産効率の改善」、「グローバル経営機能の強化」の5つのアクションプランに沿って、事業活動を進めました。

「海外展開の加速」においては、エンジニアリングプラスチック事業で、米国や中国など海外市場における販売拡大に努めました。また、エアバッグ用基布事業では、ドイツの原糸メーカーの共同買収を背景に、タイ・中国・米国における生産拠点の整備と新たなユーザーへの拡販に注力し、拡大に向けた体制づくりを進めました。

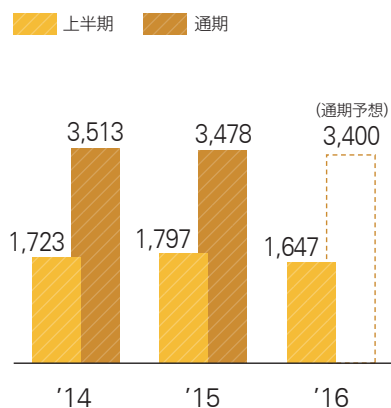
代表取締役社長

梶原誠慈

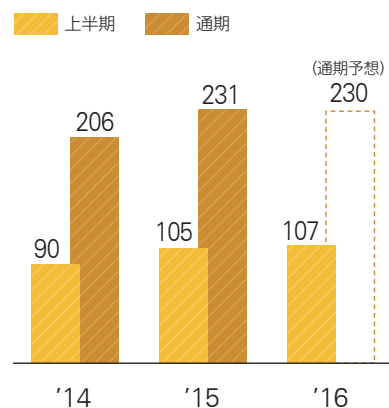


業績ハイライト

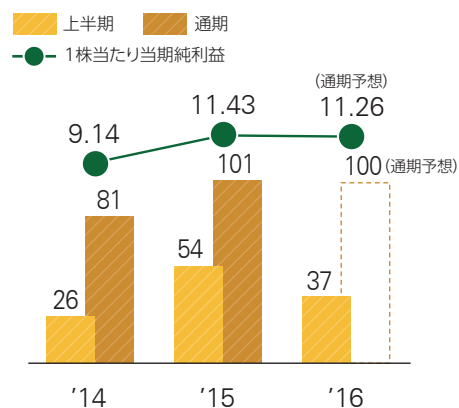
売上高 (億円)



営業利益 (億円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)・1株当たり当期純利益 (円)



「新製品の拡大・新事業の創出」では、液晶偏光子保護フィルムとして展開する「コスモシャイン®SRF」については、大手偏光板メーカーを中心に採用が拡大し、大幅に販売を伸ばしました。また、神経再生誘導チューブ「ナブリッジ®」については、国内では適用症例数を伸ばす一方、米国食品医薬品局（FDA）の承認を受けて、米国での販売の準備を進めました。さらに、ウェアラブルデバイス用のフィルム状導電素材「COCOMI®」については、センサー部材用途で採用が始まりました。

なお、「資産効率の改善」として、ブラジルにおける繊維事業の休止を決定しました。また、在外子会社の統廃合に伴い為替換算調整勘定の取崩が生じました。休止に伴う費用および為替換算調整勘定取崩損は、当期間において特別損失として計上しております。

以上の結果、当期間の売上高は前年同期比150億円（8.4%）減の1,647億円となり、営業利益は同2億円（1.5%）増の107億円、経常利益は同9億円（9.4%）減の87億円、親会社株主に帰属する

四半期純利益は同17億円（31.7%）減の37億円となりました。

中間配当につきましては、利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善などを勘案して見送らせていただくことといたしました。

2016年度通期業績につきましては、フィルム新製品の拡販などを見込んでおりますが、アクリル繊維における中国アンチダンピング政策の影響や生活・産業資材の一部製品を取り巻く市場環境の悪化などを踏まえ、売上高3,400億円（前期比78億円減）、営業利益230億円（同1億円減）、経常利益200億円（同4億円減）、親会社株主に帰属する当期純利益100億円（同1億円減）を予想しています。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS

競走馬の心拍数測定用腹帯カバーに当社導電素材が採用

当社グループ開発のフィルム状導電素材「COCOMI®」が、競走馬の心拍数測定用腹帯カバーに採用されました。株式会社Anicallが販売する、競走馬専用心拍・速度・加速度測定システム「Horsecall™（ホースコール™）※」に使用されています。馬用のウェアラブルデバイスは既に市販されていますが、これまで全力疾走する競走馬の心拍数を安定して測定できるものではありませんでした。「Horsecall™」では、競走馬の鞍を固定する腹帯に、伸縮性に優れ、電気抵抗値の低い「COCOMI®」を用いたカバーを装着して使用することで、全力疾走中の競走馬の心拍が安定して計測できるようになりました。この結果、どこからでもリアルタイムで競走馬の調教状態をチェックできる調教支援システムが誕生しました。

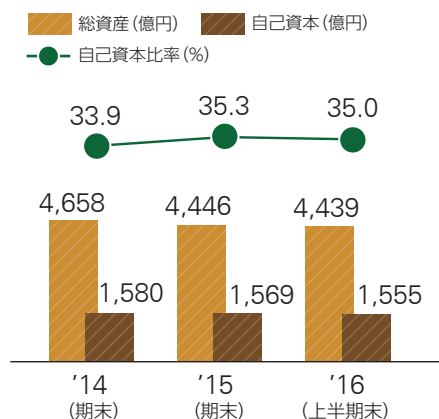
※「Horsecall™」、「ホースコール™」は株式会社Anicallの商標です。



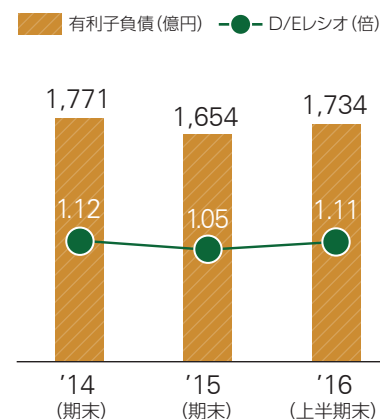
「Horsecall™」の心拍数測定用腹帯カバーを装着した競走馬

腹帯カバー

総資産・自己資本・自己資本比率



有利子負債・D/Eレシオ





事業別業績の概要



Films & Functional Polymers

フィルム・機能樹脂事業

フィルム事業では、包装用フィルムは、原料価格下落の影響を受け、減収となりました。一方、工業用フィルムは、光学用フィルムが堅調に推移し、「コスモシャイン®SRF」の販売が拡大し、増収となりました。

機能樹脂事業では、工業用接着剤は「バイロン®」がIT関連・塗料用途で苦戦しましたが、ポリオレフィン用の「ハードレン®」が、自動車塗料・インキ用途で販売を伸ばしました。エンジニアリングプラスチックは、国内では自動車生産の海外シフトに伴い苦戦しましたが、海外での販売は堅調に推移しました。

売上高 691億円 9.8%減 (前年同期比) 営業利益 60億円

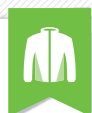


Healthcare

ヘルスケア事業

バイオ事業では、主力の診断薬用酵素が為替の影響を受けましたが、診断システムやライフサイエンス用試薬は販売を伸ばしました。メディカル事業では、医薬品製造受託が堅調に推移しました。一方、機能膜事業では、海水淡水化用逆浸透膜の交換膜が為替の影響を受けました。

売上高 145億円 7.5%増 (前年同期比) 営業利益 19億円



Textiles & Trading

繊維・商事事業

スポーツ衣料製品は順調に販売を伸ばしましたが、輸出向けナイロン織物はやや不振でした。インナー用途は量販店向けで苦戦しましたが、ユニフォーム用途は販売が堅調に推移しました。テキスタイルは、中東向け特化生地への輸出が為替の影響を受けました。アクリル繊維は、中国向け輸出でアンチダンピング政策の影響を受け苦戦しました。

売上高 398億円 9.2%減 (前年同期比) 営業利益 4億円



Industrial Materials

産業マテリアル事業

エアバッグ用基布は、国内自動車生産台数減少の影響で苦戦しました。スーパー繊維は、「イザナス®」がロープ・ネット・釣り糸用途で堅調に推移したものの、「ザイロン®」は販売が低調に推移しました。生活・産業資材は、バグフィルター用PPS繊維「プロコン®」が、市況悪化の影響を受け苦戦しました。機能フィルターは、VOC処理装置がアジアユーザーの設備投資遅れの影響を受けました。

売上高 324億円 8.2%減 (前年同期比) 営業利益 20億円



Others

不動産事業／その他事業

不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等のインフラ事業は、それぞれ概ね計画どおりに推移しました。

売上高 89億円 15.4%減 (前年同期比) 営業利益 17億円

(営業利益 消去 全社△15億円)

四半期連結貸借対照表の要旨

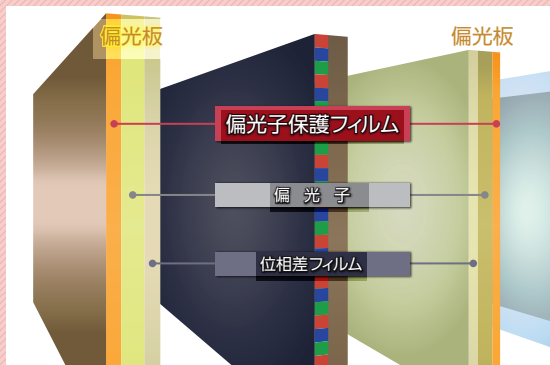
(単位:百万円)

科 目	当上半期末 (2016年9月30日現在)	前期末 (2016年3月31日現在)	科 目	当上半期末 (2016年9月30日現在)	前期末 (2016年3月31日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	189,216	186,633	流 動 負 債	128,036	130,690
固 定 資 産	254,641	257,954	固 定 負 債	157,218	153,795
有 形 固 定 資 産	207,658	208,937	負 債 合 計	285,254	284,486
無 形 固 定 資 産	3,945	3,860	純 資 産 の 部		
投 資 そ の 他 の 資 産	43,038	45,157	株 主 資 本	123,705	123,119
資 産 合 計	443,856	444,587	その他の包括利益累計額	31,811	33,796
			非 支 配 株 主 持 分	3,086	3,186
			純 資 産 合 計	158,603	160,101
			負 債 ・ 純 資 産 合 計	443,856	444,587



液晶ディスプレイの偏光子保護フィルム、生産能力を倍増

当社は、液晶ディスプレイの偏光子保護を主用途とする、超複屈折フィルム「コスモシャイン®SRF」の生産能力を倍増します。「コスモシャイン®SRF」は、従来のポリエステルフィルムでは解消できなかった虹むらを解消する画期的なフィルムで、大手偏光板メーカーに採用されるなど需要が拡大しているため、敦賀事業所にある既存のフィルム生産ラインに10億円を投資し改造を行います。これにより「コスモシャイン®SRF」の生産ラインは犬山工場の1ラインから、敦賀事業所を加えた2ラインに倍増することになります。



液晶ディスプレイの構造



出場記念プレートを手にする坂倉選手

当社グループ従業員(坂倉航季)が パラリンピックに出場



本年9月に開催されたリオデジャネイロパラリンピックの水泳競技(200M自由形、S14)に当社グループ、クレハエラストマー株式会社の坂倉航季さかくらこうきが出場しました。

予選では2組で4位となり、惜しくも決勝には進めませんでしたが、帰国後、当社を訪問した坂倉選手は、「4年後をめざし、腕力強化などトレーニングに励んで、自己ベストタイムを更新していきたい」と抱負を語ってくれました。

四半期連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科 目	当上半期累計 (自 2016年4月 1日 至 2016年9月30日)
売上高	164,658
売上原価	125,315
売上総利益	39,343
販売費及び一般管理費	28,675
営業利益	10,668
営業外収益	1,574
営業外費用	3,501
経常利益	8,742
特別利益	32
特別損失	3,281
税金等調整前四半期純利益	5,493
法人税等	1,840
四半期純利益	3,652
非支配株主に帰属する四半期純損失	5
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,658

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

科 目	当上半期累計 (自 2016年4月 1日 至 2016年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,631
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,372
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,236
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 763
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	7,733
現金及び現金同等物の期首残高	20,101
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	13
現金及び現金同等物の四半期末残高	27,847

(記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。)

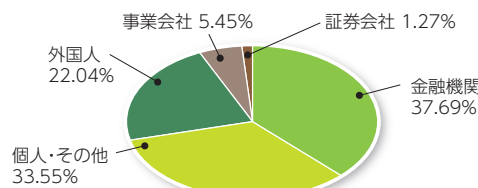
社 名 東洋紡株式会社
英 文 社 名 TOYOBO CO., LTD.
証 券 コー ド 3101
創 立 1882年(明治15年)5月3日
設 立 1914年(大正3年)6月26日
資 本 金 51,730,003,166円
本 社 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
(代表 06-6348-3111)
東 京 支 社 東京都中央区京橋一丁目17番10号
名 古 屋 支 社 名古屋市中区市場木町390番地
従 業 員 数 連結 9,827名 単体 3,029名

役員

代表取締役会長	坂元龍三
代表取締役社長 社長執行役員	檀原山誠
代表取締役 専務執行役員	香山和
取締役 常務執行役員	佐野茂
取締役 常務執行役員	手嶋真一
取締役 常務執行役員	種田祐士
取締役 執行役員	渡邊賢
取締役 ※1	荻村道男
取締役 ※1	岡豪敏
監査役 (常勤)	西中久雄
監査役 (常勤)	森田盛人
監査役 ※2	鵜飼昭義
監査役 ※2	里井昇

※1 取締役のうち荻村道男氏および岡豪敏氏は社外取締役であります。
※2 監査役のうち鵜飼昭生氏および里井義昇氏は社外監査役であります。

■ 発行可能株式総数 2,000,000,000株
■ 発行済株式の総数 890,487,922株
(自己株式2,693,696株含む)
■ 株 主 数 70,917名
■ 株式分布の状況(所有者別)



大株主

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	58,619	6.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	53,353	6.01
全国共済農業協同組合連合会	23,200	2.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	19,201	2.16
日本生命保険相互会社	17,508	1.97
東 友 会	17,028	1.92
明治安田生命保険相互会社	14,029	1.58
東 洋 紡 従 業 員 持 株 会	13,666	1.54
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	13,393	1.51
株 式 会 社 三 菱 東 京 U F J 銀 行	13,214	1.49

(注) 持株比率は、自己株式(2,693,696株)を控除して計算しております。

関係会社

	国 内	海 外	計
連 結 子 会 社	28	23	51
持分法適用会社	4	5	9
計	32	28	60

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
(期末の配当金受領株主確定日 3月31日)
定時株主総会 6月に開催いたします。
基 準 日 定時株主総会の基準日は3月31日といたします。
その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。
単 元 株 式 数 1,000株
公告掲載ホームページアドレス <http://www.toyobo.co.jp>
電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店
および全国各支店で行っております。

各種手続のお申出先

- 住所変更、名義変更、配当金の受け取り方法のご指定、
単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

区 分	お申出先
1 証券会社でお取引をされている株主さま	株主さまの口座のある証券会社
2 特別口座(証券会社に口座のない) の株主さま(区分3の株主さまを除く)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (左記、照会先をご参照ください。)
3 御幸ホールディングス株式会社との 株式交換により当社株主となられた 特別口座の株主さま ※	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

※ 当社は、2017年1月4日をもって、上記区分3の株主さまを対象とした特別
口座の口座管理機関を三菱UFJ信託銀行株式会社から三井住友信託銀行
株式会社に変更いたします。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元未満株式(1~999株)をお持ちの方へ

単元未満株式をお持ちの場合、当社に対して、次の請求を行うことにより、
売却または1,000株におまとめいただくことができます。ぜひ、以下の
制度をご利用ください。

買取制度 単元未満株式の買取を請求する。
買増制度 単元株式(1,000株)にするため、不足する株数の株式の売り渡しを請求する。

(例) 当社株式650株をお持ちの場合



お手続方法につきましては、上記のお申出先へお問合せください。